歴史総合-DX

 **1927年②（昭和2）　田中内閣の強硬外交**

辛亥革命の後、袁世凱（初代の中華民国大総統、1859〜1916）の病没後に10年間の軍閥割拠の状態にあった中国で、 1926年（大正15）7月に中国統一の孫文の遺志をひきついだ蒋介石（1887〜1975）が華北（北京・天津と河北省・山西省など）に進軍する国民党軍（北伐軍）を結成して「北伐宣言」を行った。それに対し、中国東北部（満洲）に勢力を持つ奉天（今の遼寧省瀋陽市）軍閥の首領・張作霖の軍が南進して、北平（ペイピン、北京）に乗り込んで軍政府を樹立した。一方、蒋介石の国民党軍（北伐軍） も1927年（昭和2）に南京を征圧して南京政府を樹立して首都とし、さらに北伐を再開、張作霖軍も破竹の勢いで山東省に迫り、「天下分け目の一戦」の直前に張作霖軍は、日本が既得権益を持つ山東省青島、西部の省都・済南（チーナン）を占領した。国民党軍（北伐軍）が上海を制圧した4月に誕生した田中義一内閣は、前政権下で行われてきた幣原喜重郎の「中国への不干渉主義」（幣原外交）を大転換し、積極外交に路線を変更、5月に「山東出兵に関する閣議決定」を行い『居留民保護』を大義名分に、山東省の青島に関東軍を出兵（第一次山東出兵）した。さらに6月22日に田中内閣は大連に閣僚・外務省首脳陣、中国公使、軍部首脳陣などを集めて、対中政策に関する政府方針を決定する「東方会議」を開催した。「東方会議」で内戦状態の中国で日本の権益が侵される恐れが生じたときは、断固たる措置で臨み、満蒙（満洲と内蒙古）を日本の支配下に置く「対支政策綱領」などが決定されたが、7月にはこの年2度目となる第二次の山東省の青島・済南に出兵して中国で抗日運動がおこったが、蒋介石の国民党軍（北伐軍）が別の軍閥と戦闘して敗北し、国民党軍の北伐は頓挫してしまった。